

岩手県農協青年組織協議会
ポリシーブック 2017



J A 青年組織綱領

我々 J A 青年組織は、日本農業の担い手として J A をよりどころに地域農業の振興を図り、J A 運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、J A 青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

J A 青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

1. われらは、自らが J A の事業運営に積極的に参画し、J A 運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えた J A の発展のため、自らの組織である J A の事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しい J A 運動を探求し、実践する。

1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

J A 青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

J A 青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈) 本綱領は、J A 全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川 5 原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立 50 周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべき J A 青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである(平成 17 年 3 月 10 日制定)。

はじめに

岩手県の農業については、農業者の高齢化や担い手不足、それに伴う耕作放棄地の増加等従前からの課題に加えて、東日本大震災をはじめとする自然災害により多くの人々の暮らしや農畜産物が被害を受けている。また、平成30年産からの生産調整の見直し等農業政策並びに国際自由貿易交渉における課題が山積しており、農業情勢をとりまく環境は厳しさを増している。

本県におけるJA青年部においては、盟友数が常に減少傾向にあり、今年1,616名になった。これは当協議会としての運営並びに活動に係る課題になるばかりか、各単位農協青年部、地域に密着した地域・支部の運営並びに活動への影響が懸念される。これらは、次世代の農業を担うであろう人材育成にも及ぼすものとする。盟友数が急激に延伸することは見込めないが、仲間づくり運動を通して組織の活性化を図る必要に迫られている。

青年部盟友は、このような情勢の中でも、地域の担い手として個別の課題や農業経営における課題に対し日々改善を加え、努力を重ねている。同時に個人では解決出来ない課題も出てきている状況でもある。我々は、農業という産業に携わる中で、自律した農業経営を目指すと共に、地域に根を張り生きる個人として、仲間と共に、地域住民と共に、先輩諸氏が築いてきた緑豊かな山林と清らかな水、肥沃な大地、そして地域に根付く風土、文化、伝統を守り、次世代へ継承し続けることを使命とし、活動を継続している。

そのような中、当協議会は、平成22年から活動の一つにポリシーブックを掲げ取り組んできた。それは、全国において取り組み始めた事を契機とし、現在は各都道府県において作成と活用が進展している。その作成にあたっては、現在の政策を出発点とするだけでなく、JA青年部盟友一人ひとりが営農や地域活動をしていく上で抱えている課題や疑問点について、盟友同士で解決策を検討して取りまとめている点が特徴である。これは、単に政策に対する要請・提言だけではなく、自分達でも解決に向けて努力し、取り組むという、青年部の行動目標と政策提言集である。

当協議会はこれまで、JA岩手県青年大会でのグループディスカッションを通して、2度全体の改訂作業を実施してきた。また、単位農協青年部レベルにおいてもポリシーブックの作成と改訂を実施し、更には地域青年部単位で作成した事例もある。青年部という組織活動を通して、今日まで継続してきたこの取り組みは、いつしか自信に繋がり、最終的には盟友個々の自律した農業経営と地域の活性化に結び付くものとする。今後、ポリシーブックの作成と活用に係る目的意識の更なる共有と共に、本県の独自性を反映させた取り組みと内容、そして活用方法に検討を重ねることが課題として挙げられる。

さて、「岩手県版ポリシーブック2017」は2構成となっている。本県盟友の関心が高い、「地域農業のあり方について」、「農業所得の向上について」、「国際自由貿易交渉について」、「青年部組織の活性化について」、「大規模な自然災害

等からの復旧・復興に向けて」の5つのテーマに加え、本県盟友の経営品目毎にディスカッションを実施してとりまとめた「作目別（水稲－平場及び中山間、園芸、果樹、酪農、畜産、兼業）」をテーマとして設定している。なお、「国際自由貿易交渉について」は、これまではTPPに関する内容としていた事を、直近の農業並びに経済情勢を踏まえてテーマを刷新した。また、「自然災害からの復旧・復興」についても、東日本大震災からの復旧・復興がテーマとなっていたが、近年の異常気象に伴う大規模な自然災害が増加してきた中で、昨年の台風による大規模な被害を鑑み、テーマを改訂した。そして、本県の地域農業を担うのは専業だけではなく兼業もその役割を担っていることから、兼業という新たな視点を試みたところである。

最後に、作成に係る趣旨にご理解頂き、また、グループディスカッションにご協力頂きました盟友の皆様、そして、その意見集約並びにとりまとめにご尽力頂きました各単位農協青年部委員長の皆様、そして、ご支援頂きました関係各位の皆様に改めて感謝申し上げます。

平成 29 年 4 月 11 日
岩手県農協青年組織協議会

会 長	高橋 真悟
副会長	辰柳 勝之
	大坪 長信
理 事	佐藤 勉
	新渕 伸彦
	鈴木 利幸
	菊池 亮
	小澤 正直
	中村 健治
監 事	土橋 弘章
	今野 勝人

目 次

【岩手県版ポリシーブック】

ポリシーブックとは・・・・・・・・・・・・・・・・	4
地域農業のあり方について・・・・・・・・・・	7
農業所得の向上に向けて・・・・・・・・・・	8
国際自由貿易交渉について・・・・・・・・・・	9
青年部組織の活性化について・・・・・・・・	10
大規模な自然災害等からの復旧・復興について	11
作目別の課題・・・・・・・・・・・・・・・・	12

参考資料

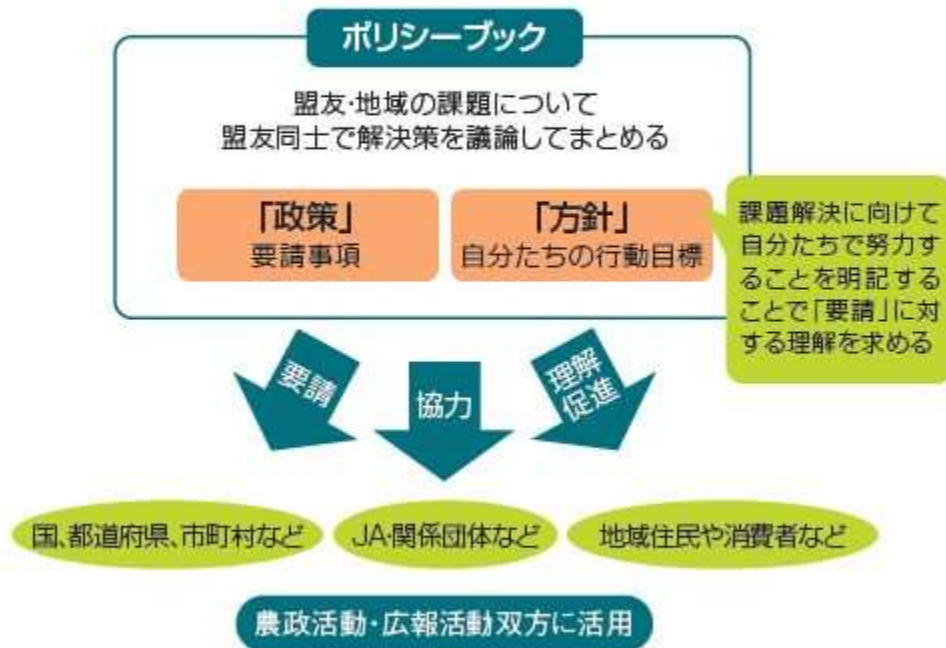
グループディスカッション取りまとめ様式	21
岩手県版ポリシーブック 2015	33

ポリシーブックとは

ポリシーブックを一言で表すと「JA 青年部の政策・方針集」となりますが、その作成にあたっては現在の政策を出発点とするのではなく、JA 青年部の盟友一人ひとりが営農や地域活動をしていくうえで抱えている課題や疑問点について、盟友同士で解決策を検討してとりまとめている点が特徴です。

また、そこには政策として要請することだけでなく、まず自分たちで解決に向けて努力し、取り組むことが明記されています。つまり、「自分たちの行動目標」と「積み上げによる政策提案」の両方を備えたものがJA 青年部の「ポリシーブック」となります。

ポリシーブックの概要



行動目標としてのポリシーブック

ポリシーブックには、課題の解決策を政策として提言するだけでなく、まず自分たちで解決に向けて取り組むことを明記しています。

農業に関する要請を行うと、「また、農業団体が補助金欲しさに要請活動をしてるぞ」などといういわれなき批判をされることがしばしばありますが、課題解決に向けてまず自分たちが努力をしていくことで、わが国の責任ある農業者として、地域住民や消費者なども含めた幅広い関係者に理解を求めていきます。

政策提案としてのポリシーブック

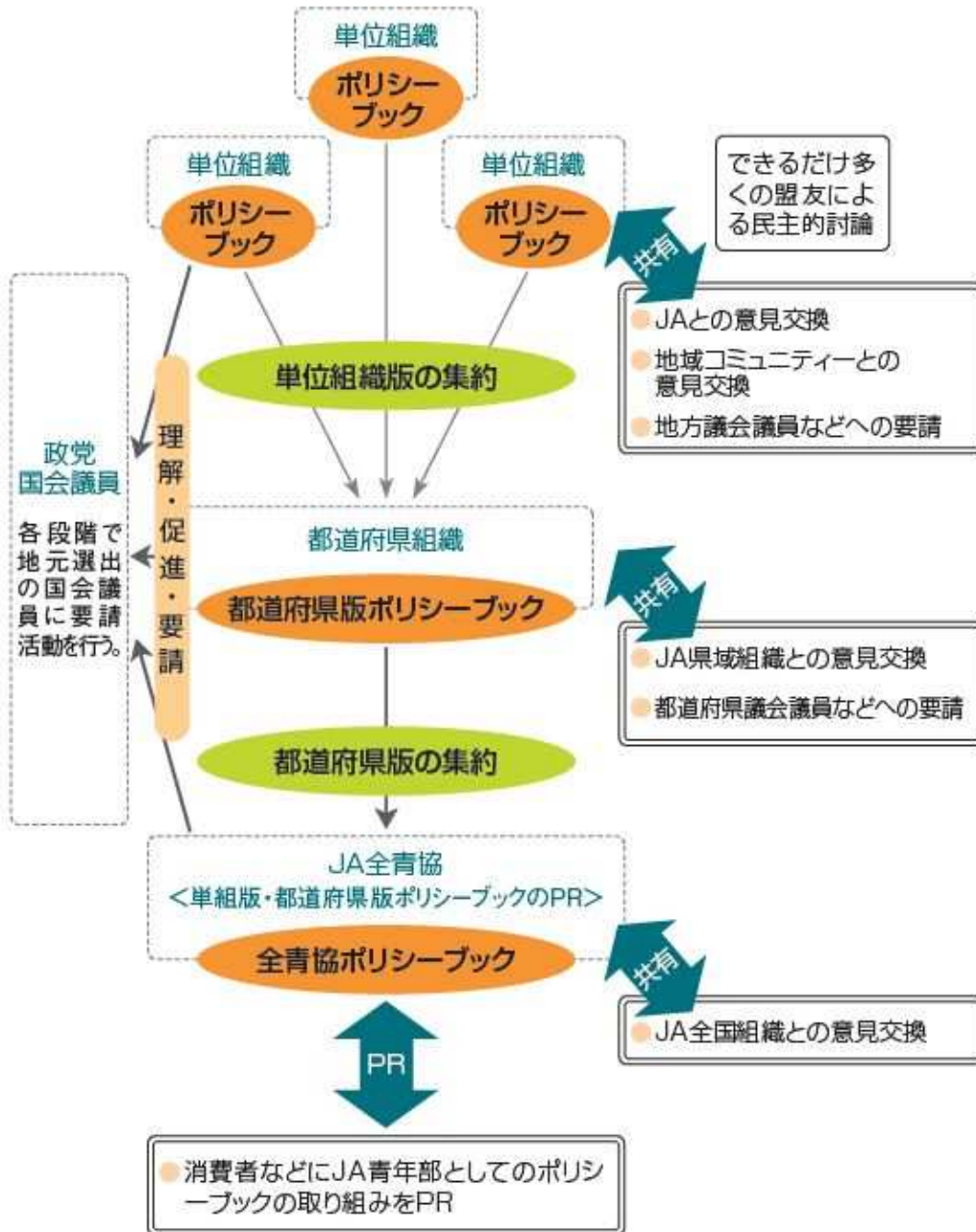
食料・農業・地域社会をとりまく状況が日々変わるなか、農業経営に大きく関わる課題について、与野党を二分するような議論となることが今後も想定されます。そうしたなかで、われわれ若手農業者の思いを対話を通じて伝えていくという、議員への働きかけによる農政運動の取り組みがより重要となります。

将来の日本農業を担う若手農業者が安定した農業経営を行うためには、農業政策の基本となる部分が制度的に安定していることが重要であり、政争の具とされることが、あってはなりません。

そのためには、農業者の立場から農業政策について自らの考えを持ち、全国の現場の声を積み上げ、その政策を支持する国会議員を応援していくことが、長期的な視点で農業政策に自分たちの意見を反映させ、かつ安定した制度を築くために必要な取り組みと考えています。



ポリシーブック作成・活用の流れ



ポリシーブック作成や意見交換プロセスが組織強化や活性化につながる

地域農業のあり方について

●課題と原因

県内の各地域において、農業者の高齢化及び後継者が他業種へ就職する等の理由から担い手不足が進行し、後継者対策が喫緊の課題となっており、地域社会の中心的存在の農業者の減少は地域の衰退を招き、それに伴い農業に係る生産部会や青年部等の各組織の縮小が進行している。これらは、将来的に耕作放棄地の増加等農村社会の存続も危ぶまれる状況は明らかである。

また、金銭的価値で測ることの出来ない農業の多面的機能が自由経済の中では維持することが難しくなっている。

これらの状況を踏まえ、将来の地域農業を支える農業後継者や新規就農者のバックアップを、行政やJA、地域農業者が協力し合い、積極的に取り組む必要がある。

●解決策

①個人・青年部として出来ること

- 部会を通じた労働力確保等、農繁期における人手不足解消に向けた取り組みの展開。
- 担い手対策の重点活動として、婚活イベントやツアーの積極的な実施。
- 他のJAと協同で婚活イベントを実施し、婚活のみならず地元観光といったPR活動も兼ねた活動の実施。

②行政・関係機関への働きかけ、提案・要望すること

- 新規就農者や後継者を対象に研修制度の充実を図るよう要請する。
- 経営基盤を安定させる為に、販売物価格の変動を緩和するような政策や助成措置の要望と要請を行う。
- JAや連合会の広報活動を更に活用し、「頑張っている青年農業者」の積極的なPR。
- TAC活動の充実により、JAと農業者の接点頻度を上げることで、細かいケアの継続を要請。

農業所得の向上について

●課題と原因

農業は、天候、市場価格、農業政策に大きく左右される状況にある。更には、資材・肥料等のコストの増加の際、容易に価格に転嫁することが出来ない。また、国際貿易交渉は、未来を担う青年農業者の農業経営の改善を迫る要因ともなっているほか、様々な外部環境に左右される農業所得であるが、現状の課題を少しでも解消し、所得の向上を図ることで、安定した食糧供給と農業者の増加にも寄与する。

●解決策

①個人・青年部としてできること

- 地域農畜産物・加工品のブランド化や地域特性を活かした魅力ある農畜産物の生産。
- 農畜産物・加工品を地域内外に積極的に PR することによる販売促進。
- 減農薬栽培や農業機械の共有化等により、生産経費の削減。
- 経営計画の策定により、経営管理の強化。

②行政・関係機関への働きかけ、提案・要望すること

- 農業者への各種補償制度、交付金が安定・継続的な制度となるべく要請。
- トップセールス等で、岩手県産農畜産物の市場価値、ブランド価値を高める取り組みを要請。
- 低コスト、高品質を実現する生産技術の更なる普及。
- 各種農畜産物の新品種の開発・促進
- 岩手県内外の飲食店への岩手県産農畜産物の使用促進。

国際自由貿易交渉について

●課題と原因

我々青年農業者は、岩手農業の担い手として、安全・安心な食の提供と地域コミュニティの維持・発展に自負を抱き、日々営農活動に取り組んでいる。

TPP 交渉については、青年農業者が将来に夢を持てるような、豊かな農業・農村を台無しにするものであることから、これまで反対であることを訴えてきたところであるが、平成 28 年 12 月 9 日の参議院本会議において、TPP 協定案及び関連法案が可決・成立した。

ただし、アメリカのトランプ大統領が、TPP から永久に離脱し、2 国間の貿易協定を目指す大統領令に署名したことから、TPP の発効は全く見通せなくなっている。

●解決策

①個人・青年部で出来ること

- 常に国際情勢を注視すると共に、盟友一人ひとりが正しい知識・情報を得るための学習会等に積極的に参加する。
- 食農教育や SNS を含むメディアを通じた情報発信により、日本の食と農の重要性を国民に対してアピールする活動を展開する。

②行政・関係機関への働きかけ、提案・要望すること

- 国民に対する適切な情報開示を政府・与党に対して要請する。
- TPP 関連予算（畜産クラスター、産地パワーアップ事業等）は生産基盤の強化に不可欠な対策であり、TPP の発効に関わらず、今後も中長期に渡る万全の措置の継続を求めている。

青年部組織の活性化について

●課題と原因

近年農業従事者の減少及び高齢化に伴い、青年部盟友数は減少の一途をたどっており、組織力が低下してきている。

○過去5年間の盟友数の推移

年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
盟友数(人)	1,855	1,819	1,758	1,705	1,616

(※ 調査基準は、毎年2月1日時点)

青年部盟友数が減少する原因としては、高齢化以外にも、地域の若い農業者がなかなか加入してこないという実態がある。その理由として、①兼業農家の増加により農業に関わる人が減っている、②地域やJA等関係団体の行事があり、日程の重複や休日がなくなる為青年部活動には参加しない。

こうした状況から、青年部行事に参加する盟友は毎回固定化されてくる為、組織活動がマンネリ化し、新しい企画も出されなくなるという負の循環になっている。また、青年部がどのような活動をしているか分からない為、加入することに躊躇している若い農業者も地域にいる状況もみられる。

地域農業の発展に向けては、未来を担う青年部活動の活性化が重要であることから、このような状況を打開し、組織の活性化に向けて取り組んでいかなければならない。

●解決策

①個人・青年部として出来ること

- 青年部活動について、積極的な活動となるよう盟友一人ひとりに活動の提案をしてもらうよう、会議等の機会の設置。
- 生産部会やJA、連合会との学習会の設定等、青年部盟友だから得られる組織メリットを享受出来るような活動の展開。
- 青年部活動がどのような組織か分からないという人がいなくなるよう、活動内容についての情報発信。
- 兼業農家の加入促進を図り、様々な業種によって得られたスキルを青年部活動の活性化に反映させる。
- 各地域において、小学校から大学まで幅広く食農教育を行い、農業ファン、青年部ファンを増やし、農業の認知度を向上させる。

●行政・関係機関への働きかけ、提案・要望すること

- JAの広報誌や日本農業新聞等に活動を取り上げてもらうような働きかけ。
- 盟友数の増加には農業者の増加が重要であることから、新規就農支援対策や後継者対策等、専業農家の増加に繋がる政策の実施に対する要請。
- 青年部活動の資金助成について、JAや関係団体へ働きかける。

大規模な自然災害等からの復旧・復興について

●課題と原因

東日本大震災から丸 6 年を迎えた。少しずつではあるが復旧・復興は進んでいるが、時間の経過と共に被災地のニーズも変化しており、どのような支援が望ましいのかタイムリーな情報把握が困難な場合もある。また、沿岸・内陸の各地において、東京電力福島原発事故による放射能汚染やそれに伴う風評被害対策が重要な課題となっている。

そして、近年の地球規模で見られる異常気象による様々な自然災害が全国各地で見られるようになった。本県においては、昨年の台風 10 号によって、県北部及び沿岸地域が大きな被害を受け、収穫間近の農産物が大きな被害を受け、更には営農再開が困難な地域もある。

これら東日本大震災をはじめとする大規模な自然災害は営農を困難にするばかりか、生活全般にも大きな影響を及ぼしている。

●解決策

①個人・青年部としてできること

- 復興に向けた活動を風化させない為に、他県青年部との交流の実施。
- 会議やイベントを被災地で行う等、現地での経済活動の実施。
- 被災した各地域のイベントが震災前と同様に取り組めるよう、開催に向けて協力するよう盟友への働きかけ。
- 一部奉仕的な支援は被災者の自立の妨げになることから、活動を選別する。

②行政・関係機関への働きかけ、提案・要望すること

- 被災地復興支援の活動に対する活動助成金の措置を講じるよう行政に要請。
- 内陸での復興支援活動状況やイベントについて、被災地の方々がいつでも情報を得られるよう窓口等の整備を要請。また、それらの情報発信窓口等を知らない人がいないよう周知徹底をはかるよう要請。
- 被災地の情報を定期的に発信するよう JA や商工会等に対しても要請。

作目別の課題

水稻一平場

●課題と原因

本県の水稲平場地帯は都市部と隣接している地域が多い。このような地帯において、農地集積は、住宅や交通事情、宅地開発、借り手が望む圃場条件との調整困難、離農や農地相続により所有者が遠方になることで所有者とのコンタクトを取ることが困難となり、耕作放棄地がみられる等の課題がある。

又、青年農業者がいる組織・経営体には既に相応の農地面積が集積し、大規模化している事例がみられるが、担い手不足も同時にみられ、規模拡大に応じて将来労働力確保が困難になる恐れがある。

更には、平成30年以降の長期的な経営安定化が不透明であったり、米価の不安定と農業機械・資材価格の高騰等もあり、収入が不安定である。

●解決策

①個人・青年部として出来ること

- 法人化をすることで、どんぶり勘定から脱却し、経営管理の徹底化を図り、財務諸表の作成が義務となる事で、金融機関からの信用を獲得し、資金を安定させ、就業条件の明確化により新たな労働力を確保する。
- 法人化出来なくとも、大規模化に伴う高額な農業機械の導入や資材管理については、グループを組んでの共同購入等で生産費の圧縮を図る。
- 農業者同志の繋がりを深め、地域の圃場地権者・耕作者の把握に努める。
- JA 青年部として米の魅力を発信し、学童農園・食農教育や販売促進を積極的に展開していく。

②行政・関係機関への働きかけ、提案・要望すること

- 平成30年以降問題について、若手農業者が永続的に農業経営できるよう、十分な政策展開を要請する。また、長期的な経営安定化を図れるよう、若手農業者を対象とした補助金制度を充実・新設することを要請する。
- 農地整理の専門機関の更なる充実と農地所有者への優遇措置を要望する。
- 岩手県産ブランド米を全国のみならず世界へ発信できるよう、行政、JA、農業者が一体となり検討し、アピールしていく。

水稻－中山間

●課題と原因

中山間地域は高齢化による離農者の増加、後継者不足、担い手不足が顕著にみられ、過疎化の傾向が強くみられ、耕作放棄地や遊休農地が増加してきている。これらは、里山・景観の保全や、水源地の確保等多面的な機能を果たせなくなる恐れがある。又、長く土地改良事業がなされておらず、圃場区画が狭く、作業効率の向上が図りにくい。更には畦畔の傾斜は強く、作業上の負担増がみられ、営農条件は不利である。

●解決策

個人・青年部として出来ること

- 地域における集落営農や法人化を進め、その中核を担っていく。
- 条件不利地ながらも経営改善の努力を行うと共に、多面的機能の維持に向け、水源等の管理を行っていく。
- 中山間地域において営農している仲間を集い、積極的に研修や視察に参加し、自己研鑽だけでなく相互に情報交換をしながら、地域に特化した品目の生産及びブランド等商品の開発等、可能性を探り、取り組む。
- 農業並びに農畜産物の魅力を SNS や各種イベント等、内外へ積極的に発信する。

●行政・関係機関への働きかけ、提案、要望すること

- 中山間地域の田畑や地域コミュニティを守る為、中山間地直接支払制度の継続と充実を要請していく。
- 集落営農や法人化への支援、それに伴う政策の充実を要請していく。
- 中山間地域で生活し、営農している現状を理解してもらい、農業経営が継続出来る具体的政策を要請する。
- 農地の基盤整備事業を要望していく。
- 農業政策に対する研修、経営及び財務基盤の安定を図れるような研修会並びに視察等の設定を要請する。

果樹

●課題と原因

本県の果樹における果実は、多収を目的とした他県に比べ、収量を抑え、手間をよりかけたことにより、食味に秀でた高品質なものであるにも関わらず、知名度が極端に低く、販売力も弱い。その為、全体的に所得が低い傾向にあり、強みのある品種への切り替えもあまり進まない為、品種毎の取扱量を確保出来ない。更に大規模な宣伝も困難であり、結果として県内での生産者のまとまりにもかけている。又、農家所得の低下は、地域において後継者不足や高齢化を進展させる恐れがあり、高度な生産技術の伝承が難しくなっており、品質の低下に繋がっている。

一方で、果樹生産に新規就農を考える者にとっては、収穫するまで年数を要する為、同じ給付金や助成金を受け取っても、安定するまでに年数を要することが、参入しづらくしている。そして、規模拡大を考える者にとって、改植事業はあるものの、新植事業がないことも歯止めをかけている。

●解決策

①個人・青年部として出来ること

- 個人での販路の開拓や SNS 等を使った PR を行う。
- 販売でも有力な省力化品種への切り替え
- 人材が不足している中で、地域内での協力態勢をつくる
- 産地を守っていく為、経営規模の拡大・効率化に努める。
- 知識・技術の向上の為に、相互の技術交換や合同研修、勉強会の開催を行う。

②行政・関係機関への働きかけ、提案、要望すること

- JA がより強い岩手県のオリジナルブランドをつくる。
- 県の機関に早生の黄色品種の開発を要望する。
- 鳥獣被害を軽減する為、個人が狩猟免許を取得できるよう助成の要望を行う。
- ハンター不足を補う為、爆音機の導入助成等を要望する。
- 消費量が減少する中で産地を守っていく為に、加工等の推進、関係団体等との連携支援を要請する。
- 経営規模拡大を促す為に、新植の助成を JA に要望する。
- 新規就農者が参入しやすいように、受け入れ態勢の強化を要望する。

園芸作物

●課題と原因

生産作物の販売単価が安く、価格変動が大きい為、経営と所得が不安定な状況にある。また、生産資材が高騰しており、経営の圧迫につながっているばかりか、担い手不足や専門性の高い営農指導の担い手も十分ではなく、高品質な作物を生産し続けることが危惧される。更には、農業政策に係る情報の収集も難しくなっている。

●解決策

①個人・青年部としてできること

- 消費者に選ばれる作物・商品を生産する為に、生産技術の一層の向上に努める。
- 生産者、職員の枠、地域の枠を超え、情報収集し、それらを共有し、反映させ、知恵を出し合い、生産現場を活気づける。
- 販路・消費拡大に向けたJAや関係団体との連携強化を行う。
- 青年部活動を通して知識や技術の習得、専門的な研修や視察等に積極的に参加し、自己研鑽に努める。また、仲間と共に参加することで情報交換や経営意識の向上に努める。

●行政・関係機関への働きかけ、提案、要望すること

- 資材や出荷経費等の透明性を確保し、生産者の所得を向上させるよう要請する。
- JAにおける営農指導のプロフェッショナルを育てる環境整備について要請する。
- 座談会や、よりあい等を通じて、知恵を出し合い企画し、必要に応じて行政、関係団体等を巻き込み、農産物と地域のPR、活性化につなげる。

畜産

●課題と原因

高齢化が顕著にみられる中、担い手並びに後継者不足が進展している。そのような中で若手生産者が生産技術の向上や増頭並びに規模拡大、老朽化した畜舎の改善や資本増強を図る為に運転資金を確保したいが、個人経営体であることで厳しい状況がある。

●解決策

①個人・青年部として出来ること

- 繁殖現場と肥育現場との情報交換の場を設け、更なる産地づくりを確立させる。
- ブランドの知名度を向上する為、イベント等において積極的な消費者への PR を展開する。
- 畜産にかかる専門的な研修や視察等に積極的に参加し、自己研鑽に努める。また、仲間を集い共に参加することで情報交換や経営意識の向上に努める。
- 畜産並びに農業全般に対するイメージ向上を図る為、仲間と共に各種イベント等において積極的に消費者へ PR する。

②行政・関係機関への働きかけ、提案、要望すること

- 本県は、生産地であるが消費地とはいえない状況にある。消費者の嗜好に即した市場開拓を行い、地産地消の拡大を要請する。
- 生産コストの低減と成績向上の為に地域コミュニティの枠を超え、県内の特性を活かした耕畜連携の支援・強化を要請する。
- 畜産現場におけるヘルパーの導入等、労働環境改善並びに働き方改革に対する要望をする。
- 畜産において継続した経営をする為、経営並びに財務基盤の安定にかかる相談会や研修会の企画を提案及び要請する。

酪農

●課題と原因

近年、労働力（人材、担い手、酪農ヘルパー等）が高齢化や担い手不足等により減少傾向にあたり、農地が少ない為粗飼料不足や土地が狭い為に作業効率の悪化がみられる。又、牧草の収穫においては天候に左右されることで品質にも影響し、鳥獣被害の為収量や品質の悪化がみられる。更には授精時期の集中や、素牛価格の高騰等により牛が不足したり、餌や機械、資材等の高止まりによる資金不足がみられたり、老朽化による畜舎の改善が必要である。

●解決策

①個人・青年部として出来ること

- グループをつくり、協力して農作業の効率化をはかる
- イベント等を通して酪農に対してのイメージアップを行う。
- 若手酪農家で視察や研修を行い、個々人の知識や技術の向上に努める。
- 牝種を使い、自家産後継牛の確保（自家保留も進める）
- 遊休農地の活用や草地更新、草地造成を行う。

②行政・関係機関への働きかけ、要請、要望

- 酪農ヘルパーに対する補助、利用者の少ないグループに補助してもらう。
- コントラクターの設立
- 酪農にはハードルの高い補助が多い為、政策に関わる補助や助成等の情報を酪農家に伝わるよう要請する
- 粗飼料不足を補う為、自治体や農業委員会等からの情報収集や情報提供を望む。
- 電牧等の資材補助やリース事業等資材に関わる要望を行う。

兼業

●課題と原因

兼業であっても地域の担い手として農地の多面的機能の維持に努めており、時に小規模ではあるが規模拡大も行っている。しかし、近年の農業従事者の高齢化並びに後継者及び担い手不足はみられ、更に米価下落や生産資材、農業機械の価格の高騰により将来の見通しに不安を抱いている。また、当然のことながら、仕事を持っている為に、作業が休日に集中し、自分の時間をもつことが出来ないわりに、生産資材の高騰等により収益があまり得られず、給料から引かれることも少なくない。

地域の担い手として専業農家と共に農村風景の維持に努めていきたいが、家族の協力があつてのことも家族の高齢化は進み、ますます自己に係る負担が大きくなることが予想し不安も抱く。また、近隣の兼業農家と協力しようとするも人手不足は否めない。

●解決策

①個人・青年部として出来ること

地域内の兼業農家が協力し、作業を行い、資材の注文も協同で行う。また、農業機械も共同購入し、同一作業が重ならないように職場の有給休暇等を上手に使い、週末の作業を減らしていく（集落営農とは別）。

②行政・関係団体への働きかけ、提案、要望すること

兼業（小規模）農家への補助金を見直し、地産地消をさらに推進してほしい。
 専業農家も兼業農家も純利益が上昇すれば農業者が増えると思われる為、JAや関係団体は若手生産者に情報を発信してくれるよう要請する。

参 考 资 料

「グループディスカッション取りまとめ様式 1」

作目名： 水稻－平場①

記録者： _____

<課題>

<原因>

<解決策>

① 営農（作目： ）する中での現在の課題は何か	② その課題は何に原因があると考えられるか	③ 解決策としてはどのようなことが考えられるか
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業者の高齢化 ・ 後継者がいない ・ 地域から人が減った ・ 重労働 ・ 米が安い <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 品種の選択が少ない（いわてっこ） ・ 県北むけの品種開発はやっているのか ・ 米単価が安い為農家所得が少ない（生産資材が高い） <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米価が安すぎる（生産費が高い） ・ 田んぼの水代高すぎ ・ 資材の高騰 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 減反率が増えている ・ 米政策が変わり過ぎて、将来のビジョン、戦略が立てられない <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いわてっこは売れるが、「安くてうまい」って評価はどうなの（生産者として） ・ 市町村またいで圃場があり、意見がまとまらない ・ 法人化や大規模は良いが、10年後は誰が経営するの ・ 銀河のしずく、おいしいね ・ 冷害にあいやすい ・ いくつかの作目を栽培しなければならない <p>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農機への投資が大きい ・ 機械が高すぎ ・ 機械が高い <p>⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業引き継がれるのが不安 ・ 担い手への集約は良いが、高齢化等により若い担い手の受け皿が不足している <p>⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米の消費量が少ない ・ 米を食べる人が少なくなっている 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田舎離れ ・ 後継者不足 ・ 収入が少ない ・ 農業に関心がない若者が増えている。又は、安定した生活を求める為、農業をしていくことに不安があるのではないか ・ 農作業してくれる方々を見つけることがなかなか出来ず ・ 農業に魅力がない <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高効率生産のノウハウが JA にあまりない。あっても広まらない ・ 米価がやすい ・ 需要性がすくない主食の変化 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米が安い→資材及び機械が高い ・ 削るのは食費。安い価格の物が選ばれる <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来的なしっかりとしたビジョンがないからではないか（ビジョンが変わり過ぎ） <p>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 再投資するほどの収益がない ・ 大規模化を勧めるわりに助成金が少ない <p>⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農地を貸したい人が多すぎる ・ 高齢化に伴い、作業を続けていけず、法人に集約していくが、法人でも高齢化は進んでおり、5年後 10年後への不安はある <p>⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雑穀は売れている ・ 米を炊くのが面倒くさい 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の魅力発信 ・ 市町村や JA 等が作業する人を斡旋 ・ 農業の大切さ、魅力の発信 ・ 子ども達に農業体験をさせる <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米が売れるように米の PR（CM 等）をもっとした方がよいと思う <p>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青年部盟友限定の農機助成制度をつくってほしい

「グループディスカッション取りまとめ様式 1」

作目名： 水稻－平場②

記録者： _____

<課題>

<原因>

<解決策>

① 営農（作目： _____ ）する中での現在の課題は何か	② その課題は何に原因があると考えられるか	③ 解決策としてはどのようなことが考えられるか
<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家毎の温度差 ・ 農薬の価格が農家の負担になっている ・ 米が安い ・ 収量を目指すに、かかる肥料や資材等のコスト増がみられる ・ 米価に対して生産資材が高い（気がする） ・ コストの少ない米づくりはないのか ・ 後継者不足 ・ 資材の高値 ・ 高齢化 ・ 米の値段が安い ・ 農業機械が高額 ・ 機械が高い、新しく買えない ・ 後継者が少ない ・ 収益が上がらない→小規模農家 ・ 水稻だけだと厳しい ・ 大規模農家なら低コスト品目を選択できるが、小規模だとそうもいかない ・ 兼業農家が多く、JA がうまく活用できていない（平日） ・ 農機具も高い ・ 貸し出し等の整備不足（共同利用） ・ 受託されている農家も手が回らなくなってきた（高齢化） →共倒れになる ・ 不耕作地が目立ってきており、かつ管理が出来ていない ・ 受託農家の仕事ばかりが増えて、パンク状態の割に担い手不足 ・ 圃場が小さい ・ 受託圃場（小作含む）が点在している為、移動が多く大変 ・ 集落営農化、JA 改革等、農家の現状を見ない公的な提案 ・ 家族経営だと休日がほとんどない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外米などの安い米を求める消費者が多い ・ 国内の米消費減（米以外にパン、麺類等多様化している） ・ 米の需要量の低下 ・ 米価が安い ・ 食べ物の多様化 ・ 消費者の米離れ ・ 米の消費減により価格の減につながる ・ 高齢化 ・ 輸入食品の多様化 ・ 米が小麦などの様に変化し消費される方法が少ないと思う ・ 資材（肥料、農薬）購入が JA 一本の為、値下げ交渉等が出来ない ・ 米価が高くなれば、資材が高く感じない ・ 資材も機械も米が安定して売れていけば高くても買うのに ・ 国の農業事業への補助金が低い ・ 耕作地を放棄する年配者が多く、若手農業者が受け入れてもほとんど手をかけられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは近所の市議会議員さんに要望出来る場を設ける ・ JA 青年部として、農作業体験を企画して、それを販売体験まで行う ・ 食育（和食の PR） ・ 稲刈り体験等を通して、米の重要性を伝える ・ 米の消費拡大 PR ・ PR 活動 ・ 米を主食に戻すような PR 活動 ・ ブランド化の推進とセールス活動を行い価格を上げる ・ 岩手県産米のブランド強化（魚沼産コシヒカリのように）

「グループディスカッション取りまとめ様式 1」

作目名： 水稻－平場③

記録者： _____

<課題>

<原因>

<解決策>

① 営農（作目： ）する中での現在の課題は何か	② その課題は何に原因があると考えられるか	③ 解決策としてはどのようなことが考えられるか
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 圃場の集積 大規模化が求められるので資本もたらない、リスクも大きい 圃場の排水不良によりコンバインで刈取ができない 効率的作業圃場 基盤整備の話が出ているが、地域のまとまりがなく話しが進まない 休耕地が増えてきている 面積を増やしたいが・・・ <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 米価が安い 資材が高い 今年はカメムシの被害が多かった 病害虫防除の徹底 米価の不安 資材高値 ブランド <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 面積拡大に伴い作業機械が追いついていない 機械が高額過ぎる 機械 作業料金の明確化 連年作業 倉庫等の設備 乾燥調整施設 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> 後継者不足 新規の若い人が参入しにくい 働き手の不足 担い手の不足 人材確保（オペレーター等） 次世代への課題 人が足りない 大きい面積が足りない 草刈り等地域の補助員（協力者）が減る一方である 同じ部落に後継者が少ない 嫁 親 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人で作業できる 排水対策が出来ていないから 農地の持ち主が地元でない 誰の圃場化分からなくなってきている 個人の情報交換が昔より少なくなってきている <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 需要が少ない 農家にお金が回ってこない→米価が安い 販売部門の確立 売るアイデア 消費者との接点 外食産業が入り込んで手軽にパンや麺を食べられるようになった為 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> メーカー同士の競争が少ない 機械の性能は良くなってきたが、高額になってきた 作業分担する レンタルする 共同購入 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い人の絶対数が少ないので人数か政治的な「力」が無いから 農業への明るいイメージ（収入等） 会社勤め（兼業） 農業のイメージ悪い 人との接点拒む 親の考え方、昔のやり方 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> JAで圃場を所有 農地を所有している人たちに対してもっと優遇措置をだす（国やJA等補助金の継続 空き地、土地整理の専門機関がほしい <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売促進 ブランド化 特徴の明確化 JAとの販売アイデアを考える 青年部事業として米の魅力を発信する場を設ける <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> グループを組んで共同購入して機械代をまかなう 保険等で修理を対象にした制度をつくる <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織で機械を購入し、販売をして、人を育てる 農業に憧れをもっている都会の人達を引き込む（少しでも収入等を整備して） 魅力（人、仕事、お金、男気）

「グループディスカッション取りまとめ様式 1」

作目名： 水稻－平場④

記録者： _____

<課題>

<原因>

<解決策>

① 営農（作目： ）する中での現在の課題は何か	② その課題は何に原因があると考えられるか	③ 解決策としてはどのようなことが考えられるか
<p>①後継者不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足 ・農業資材や農薬等が高い ・水不足 ・後継者不足による担い手の負担増 ・後継者不足で農業を辞める人が多い ・法人設立しているところが作業員が不足 ・担い手不足（高齢化）による後継者不足 ・水不足（溜池から水を引っ張っている） ・技術と経営の継承 ・若い作業者が足りない <p>②貸し手不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件の良い貸し手がない ・農地の減少（宅地化） <p>③収入の不安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間の収入が安定しないこと <p>④機械導入資金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型機械導入に必要な資金が大変 ・機械類の買い替え <p>⑤作業の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草刈りをする人が少なくなって、除草剤で処理をする人が多くなり、環境破壊へ ・田植え後の水田管理で農薬、除草剤散布が大変 ・作業内容の好き嫌い <p>⑥圃場条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市化による移動の不便 ・パイプラインの予算がつかず、2、3年遅れている。その間用水路補修は禁止（パイプラインの償還は工事が全て終わってから、終わったところはタダで水を使っている） <p>⑦その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地が集約化され効率化が進み、仕事がなくなり、地域の人がホケる 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足の要因については定期的に収入が入らないこと（米では収入時期に限られる為） ・担い手不足という言葉が悪い（何でも担い手不足という言葉にして、悲観して自己満足している。不安をあおっている） ・収入が足りないから担い手不足 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆずる気が無いから ・貸し手不足は、米が安定しているから、お金になるから、生活の自己設計が丁度良いから、機械化が進み楽だから <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農畜産物が安いから ・米価下落がないように国でも価格安定してもらえるような仕組みづくりを ・米価下落の為 ・異常気象 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同での機械導入で資金も購入した上でJAで補填出来ないか？（組合員に少しでも還元する感じで） ・機械を大型化した為高額化 ・後継者がいれば、買い換えるタイミングも考えやすい <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械化不足 ・地域共同で農作業を行うことにより、田植え稲刈り等作業効率を図る <p>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地改良予算不足 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足という言葉禁止 ・都会の方に農業支援できるような取り組みが出来ないか ・国、地方、JAによる魅力的な農業に対する環境整備 ・法人化して雇う ・小泉進次郎衆議院議員を農林水産大臣にして農業の人気アップ ・青年部活動で小中学校に食農教育の推進（つくる喜びを知ってもらう為） <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だまって待つ <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米価下落を補填できる国への要望 ・米価安定化 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年玉付き機械の販売 ・資金（農業近代化、農機ローン営業等） ・スポンサー付機械の販売（F1等スポーツ等で企業名が入った機械） <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械メーカーへ依頼 <p>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地改良予算獲得 <p>⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余剰人員による新規事業

「グループディスカッション取りまとめ様式1」

作目名： 水稻－中山間

記録者： _____

<課題>

<原因>

<解決策>

① 営農（作目： ）する中での現在の課題は何か	② その課題は何に原因があると考えられるか	③ 解決策としてはどのようなことが考えられるか
<p>農地の条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田の規模が小さく、効率が悪い ・平場に比べ圃場の区画が小さい ・平場に比べて作業がしにくい（効率が悪い） ・田んぼが点々とある為、移動が大変 ・集約しにくい環境（面積集約したいのに） ・農道の整備が不十分で大きい機械が進出出来ない ・規模拡大したいが条件の良い圃場がない（中山間の為） ・土地がまとまらない <p>管理の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾斜の幅がある為草刈りが大変 ・斜面が多くて草刈りが大変 ・傾斜が多い為、法面の草刈りが大変 ・管理、草刈りがひどい ・管理が難しい（草刈りなど） ・水管理が大変 ・水が山から来ない ・圃場管理が難しい（結局米にたどり着く） <p>水稻単作は難しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米以外を出来ない状況 ・気候が不安定なので、作れる作物に限られる ・山間部なので冬場の営農が大変 ・集落営農組織を作る流れはあっても具体的な計画がない ・集落毎に営農団体を作っても経営のノウハウがない <p>後継者問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手農業者が少ない ・後継者がいなく、農業から離れる ・農業を一から始めるハードルが高い ・水稻だけでは生活できない <p>平場との違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平場と中山間地域を同じ考えで政策を進められるので困る ・平場との作業経費の差 ・平場の人と話が合わない ・平場で作ったものと価格が同じで、条件が悪いところで作る意味がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域だから 	<p>特化した作物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に特化したブランドをつくる ・中山間地域で実際に新たな品種改良をしてもらう（特色を出す為） ・個人として平場と差別化できるように高収入のものをつくる ・水稻はあきらめて野菜等を作付する ・圃場状況を考えて品目を選定 ・離れている圃場を活用して作期をずらす ・環境が場所によって異なるので色々植ええられる。（時期をずらせる） <p>SNSの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力の発信 ・都市部への情報の発信（ブランド力の強化） ・SNSでのPR <p>行政に要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地中間管理機構を利用しやすい団体にしてほしい ・中山間事業の助成金を継続してほしい ・行政には中山間を理解してもらい、補助金をつけてもらう ・補助金もらう場面多い ・基盤整備事業を導入する ・少子高齢化がそもそも問題（子どもをたくさんつくる）

「グループディスカッション取りまとめ様式 1」

作目名： 果樹

記録者： _____

<課題>

<原因>

<解決策>

① 営農（作目： _____ ）する中での現在の課題は何か	② その課題は何に原因があると考えられるか	③ 解決策としてはどのようなことが考えられるか
<p>①販売面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販路 ・販売の方法について ・販売ルートの拡大 ・消費者の生食離れ ・収入が不安定 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売価格の低下 ・農協の販売能力が弱い ・JA、個人どちらも PR 不足 ・JA 取扱量の減少 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら販路を開拓する ・インターネットを使って販売 ・オリジナルブランドを作る ・SNS で PR
<p>②効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事をする上での効率化 	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバイト不足 	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省力品種への切り替え
<p>③後継者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足 ・生産者の高齢化 ・空き園地 ・協同防除組合の高齢化 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者が地元にはいない 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協力態勢づくり
<p>④品質・品種・技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品質の向上 ・これからの品種 	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術不足（主に剪定） 	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強会を開く ・早生の黄色品種を開発してもらう
<p>⑤環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊やハクビシン等の被害 	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狩猟する人が減った 	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許に助成金を出す ・爆音機の導入

《グループディスカッション取りまとめ様式 1》

作目名： 園芸①

記録者： _____

<課題>

<原因>

<解決策>

① 営農（作目： ） する中での現在の課題は何か	② その課題は何に原因があると考えられるか	③ 解決策としてはどのようなことが考えられるか
<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物の値段が安い ・ 米価が上がらず、水稲一本では生活が苦しい ・ 肥料の値段が高い ・ 米の価格が安い ・ 後継者が少ない ・ 経費が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 店頭価格が安い ・ 価格の不安定 	<p>ブランド化する</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>JA への出荷基準を高める</p> <p>生産者は基準を満たすべく努力する</p> <p>JA 青年部として販促活動</p> <p>行政や関係機関と連携し、CM 等で周知していく</p>

「グループディスカッション取りまとめ様式 1」

作目名： 園芸②

記録者： _____

<課題>

<原因>

<解決策>

① 営農（作目： _____）する中での現在の課題は何か	② その課題は何に原因があると考えられるか	③ 解決策としてはどのようなことが考えられるか
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料、肥料、農薬が高い ・ 資金繰りが厳しい（仕事が増やせない） ・ 面積拡大するのに借りられる土地がない ・ 収穫時期によって収入が大きく変わる ・ 技術面で相談出来る人が少ない ・ 土壌病害に勝てない ・ ハダニ等の害虫被害の拡大 ・ 土壌改良の出来ない土地 ・ 新しい作物の導入 ・ 園芸販売担当職員の出荷物に対する知識 ・ 周年農業 ・ 夏場の睡眠時間の不足 ・ 出荷作業に時間がかかる（規格が多い為） ・ 少量多品目の作付しすぎで忙しい ・ 時間、人手不足で理想的な手入れが出来ない ・ 季節雇用の人材がいない ・ 人手不足による作業効率の悪さ ・ 生産者の高齢化 ・ 地域でアルバイトの雇用が出来づらい ・ リーダーとなりうる人材確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売単価が安い為相対的に資材が高く感じる ・ ハウス栽培で季節に左右されない環境づくり ・ 専門知識の高い営農指導員が必要 ・ 東北の季節特性で降雪時期の作付が難しい ・ 家族経営の為高齢化で人手が減ってきた ・ 雇用環境の改善 ・ 雇用の為のノウハウがない ・ 年間雇用が出来ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職を育てる ・ 農協のネット販売 ・ 販売単価を高くする ・ JA 改革に頼る ・ お隣、集落間でのお付き合いを大切に ・ 農家組合員や農業委員会、自治体とのつながり ・ 出荷したい時期に出荷出来るように栽培技術を磨く ・ 品種を工夫する ・ 青年部の活動を通じて人脈を広げる ・ 冬の作業を増やす（収入）

「グループディスカッション取りまとめ様式 1」

作目名： 畜産

記録者： _____

<課題>

<原因>

<解決策>

① 営農（作目： _____ ）する中での現在の課題は何か	② その課題は何に原因があると考えられるか	③ 解決策としてはどのようなことが考えられるか
<p>①環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産廃処理 ・糞尿処理の問題 ・地域の理解 ・防疫 <p>②人材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の育成 ・従業員確保と育成 ・仲間の確保 ・担い手 ・労働力 ・技術の向上 ・加工技術の向上の機械 <p>③施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜舎の老朽化 ・施設の更新 ・畜舎の改善（堆肥舎、牛舎） ・施設の老朽化 <p>④資金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料の高騰 ・粗飼料の確保（作業機・農地） ・機械が高い ・規模拡大の資金調達 ・子牛が高くて買えない ・税金対策 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡り鳥 ・臭い <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物との仕事の為、長期休暇が取りづらい ・情報量が少ない <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古くなった ・補助金をもらうときのハードルが高い ・条件面が厳しい <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外の気候変動 ・個人経営だと資金を借りにくい ・素牛不足→生産者不足 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堆肥を使ってくれる仲間を見つける ・野鳥の進入を防ぐ ・産廃の新しい利用方法の研究 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージアップ ・情報誌、専門書等で知識を身につける ・畜産ヘルパー ・JA への情報提供の要請 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助、融資条件の簡略化 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代わりとなる飼料の発掘 ・行政、関係機関等と税金対策の勉強会の実施

「グループディスカッション取りまとめ様式 1」

作目名： 酪農①

記録者： _____

<課題>

<原因>

<解決策>

① 営農（作目： ） する中での現在の課題は何か	② その課題は何に原因があると考えられるか	③ 解決策としてはどのようなことが考えられるか
<p>① ・ 嫁不足</p> <p>② ・ 酪農ヘルパー足りない</p> <p>③ ・ 餌の収穫時人手のなさ ・ 人材不足 ・ 畑の面積は増えているが、収穫がおいつかない</p> <p>④ ・ 天気がよめない</p> <p>⑤ ・ クマ出没多い</p> <p>⑥ ・ 草地在狭く、効率が悪い</p> <p>⑦ ・ 牛が高い（導入経費かかる）</p> <p>⑧ ・ 草が不足している ・ 増頭したいが、土地がなく牛舎を建設出来ない</p>	<p>① ・ 出会いが足りない ・ 休日をつくりづらい</p> <p>② ・ 経営者の高齢化→（病気） ・ 求人を出しても人材が来ない ・ 酪農に対するイメージが悪い ・ ヘルパーのほとんどが酪農後継者</p> <p>③ ・ 農業従事者の減少、後継者不足 ・ 人口減少 ・ 高齢化</p> <p>④ ・ 異常気象 ・ 気象庁の精度が悪い ・ コントラがない</p> <p>⑤ ・ クマの餌が少ない ・ 猟師不足 ・ 対策不足</p> <p>⑥ ・ 集積が進まない</p> <p>⑦ ・ 後継牛不足 ・ 黒毛、個体販売、切り替え ・ 高齢化等により飼養戸数の減少</p> <p>⑧ ・ 土地が少ない ・ 簡単に借りられない ・ 購入飼料が高い（粗飼料）</p>	<p>① ・ イベントに参加する ・ 休日を取り、出掛ける ・ イベントを開催してほしい</p> <p>② ・ 酪農に対するイメージアップ（休日、保険等） ・ 人を雇用する ・ 酪農の楽しさを感じてもらおう ・ 求人を出し方を変更する</p> <p>③ ・ 人をまとめる ・ コントラクターの設立</p> <p>④ ・ 収穫作業の効率アップ、集約してスピードアップ ・ 観測施設の増強</p> <p>⑤ ・ 電牧等の資材補助 ・ 電牧等のリース</p> <p>⑥ ・ 仲間作りをして土地を交換する ・ 役場、農業委員会の仲介</p> <p>⑦ ・ メス種を使い、自家産後継牛の確保 ・ 自家保留を進める ・ 導入助成の補助金アップ ・ 牛が増えるように施策を打ってもらおう</p> <p>⑧ ・ 遊休農地の活用 ・ 行政での窓口の開設（地元） ・ 情報収集、情報提供</p>

「グループディスカッション取りまとめ様式 1」

作目名： 酪農②

記録者： _____

<課題>

<原因>

<解決策>

① 営農（作目： ） する中での現在の課題は何か	② その課題は何に原因があると考えられるか	③ 解決策としてはどのようなことが考えられるか
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月別に出荷乳量にバラツキがある ・ホルスタイン牝種の受胎率 ・素牛の不足 ・種付けがイマイチ <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材、担い手、作業者不足 ・後継者がいない ・作業効率（一人作業である） <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜舎の改善 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金不足 ・借金が多い 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授精時期が集中する ・授精師に問題 ・値段の高騰で導入しづらい ・草の問題 ・牛舎環境に問題 ・牛の飼養管理に問題 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親が高齢である上に結婚していない ・規模が広くて効率が悪くなる ・時期作業がかぶる <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金不足 ・施設の老朽化 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳価が上がらない ・飼料が高い ・導入牛が高い ・機械が高い 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年部として、若手酪農家で視察、講演に参加する ・個人として、視察や講演を通してスキルアップを図る <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年部、個人として、グループをつくり作業効率を良くする ・ヘルパーの補助 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金の補助 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年部、個人として、自家生産にする。また、一頭の個体能力を高める

「グループディスカッション取りまとめ様式 1」

作目名： 兼業

記録者： _____

<課題>

<原因>

<解決策>

① 営農（作目： ）する中での現在の課題は何か	② その課題は何に原因があると考えられるか	③ 解決策としてはどのようなことが考えられるか
<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来どうするか（農業を続けるかどうか） ・ 将来の見通しが不安（収入） ・ 家族の協力がなければ、作業をしている本人の負担が大きくなる（結局、家族の協力が前提になる） ・ どちらかにウェイトをかけると、満足した結果が得られない可能性が高い ・ 肥料、農薬、農機が高すぎる ・ 水稲、畜産（繁殖）を行っている 休日に農作業をしているが規模が小さいので特に時間が足りないということはない 農業で生活することが考えていない 親が高齢になった場合は作付を維持するのは難しいと思っている ・ 機械の更新が思うようにいかない ・ 農機具の更新がうまくいってない ・ 休日（時間）のやりくりが難しい ・ 有給が足りない ・ 休日にしか出来ない ・ 自分の時間がとれない、休めない（土日に農作業） ・ 米を作る上で日中仕事をしていると田んぼの様子を見に行けない。（管理が難しくなる） ・ 天候との兼ね合いで就労時間に制限ある。（土日のみ、早朝等） ・ 仕事と農業をすることによって、自分の時間が限られる（少ない）ということ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人手不足 ・ 機械の専用性 ・ 生産技術の見直しが行えないことが、結果的に収益を上げることが出来ていない原因と思われる ・ 指定資材の購入 ・ 経営規模の違いで農業収入が違う ・ 兼業ということ ・ 兼業という農業のやり方 ・ 農産物の価格が安い ・ 農業のみでは収入が足りない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物の価格を上げるよう提言する ・ 消費拡大対策 ・ 機械の共同購入及びリース ・ 共同所有（分業性）、集約化 ・ 農業機械等を集落等で協同で購入し、利用する ・ 他地区との農機具の共有 ・ 有給を活用し、土日の作業を減らす ・ 小規模であっても農地を守っていく ・ 地域で助け合い農作業を行う ・ 同一作業者との協力 ・ 小規模農家にも手当てを ・ 法人、大規模農家に特化した補助金を見直してほしい ・ 共同購入のスケールメリット

岩手県農協青年組織協議会 ポリシーブック 2015

～ 農業・農村に関する政策提言 ～



1. 地域農業のあり方について

(1) 地域農業の現状

県内の各地域において、農業者の高齢化および後継者が他業種へ就職するなどの理由から担い手不足が進行し、後継者対策が喫緊の課題となってきている。

地域社会の中心的存在の農業者の減少は地域の衰退を招き、それに伴い農業に関係する生産部会や青年部などの各組織の縮小が進行しており、将来的には耕作放棄地の増加など農村社会の存続も危ぶまれる状況なのは明らかになっている。

また、金銭的価値で測れない農業の多面的機能が自由経済の中では維持することが難しくなってきている。

これらの状況を踏まえ、将来の地域農業を支える農業後継者・新規就農者のバックアップを行政・J A・地域の農業者が協力し合い、積極的に取り組む必要がある。

(2) 青年部としての活動の展開

- ① 部会を通じた労働力確保など、農繁期における人手不足解消に向けた取組の展開。
- ② 担い手対策の重点活動として、婚活イベント・ツアーの積極的な実施。
- ③ 他のJ Aと共同で婚活イベントを実施し、婚活のみならず地元観光といったPR活動も兼ねた活動の実施。

(3) 行政・関係団体への働きかけ

- ① 新規就農者や後継者を対象に研修制度の充実をはかるよう、行政・J Aへの要請。
- ② 経営基盤を安定させるために、行政に対して販売物価格の変動を緩和するような政策や助成措置の要望。また、J Aへの農産物価格安定基金制度の導入などの要請。
- ③ J Aや連合会の広報活動をさらに活用し、「頑張っている青年農業者」の積極的なPR。
- ④ T A C活動の充実により、J Aと農業者の接点頻度を上げることで、細かいケアの継続を要請。

2. 農業所得の向上に向けて

(1) 農業所得の向上に向けた課題

農業は、天候、市場価格、また農業政策に大きく左右される状況にある。さらには、資材・肥料等のコストの増加の際、容易に価格に転嫁することが出来ない。

また、T P Pの大筋合意や国際貿易交渉は、未来を担う青年農業者の農業経営の改善を迫る要因ともなっているほか、様々な外部環境に左右される農業所得であるが、現状の課題を少しでも解消し所得の向上をはかることで、安定した食料供給と農業者の増加にも寄与する。

(2) 青年部としての活動の展開

- ① 地域農畜産物・加工品のブランド化や地域特性を生かした魅力ある農畜産物の生産。
- ② 農畜産物・加工品を地域内外に積極的にP Rすることによる販売促進。
- ③ 減農薬栽培や農業機械の共有などにより、生産経費の削減。
- ④ 経営計画の策定により、経営管理の強化。

(3) 行政・関係団体への働きかけ

- ① 農業者への各種補償制度、交付金が安定・継続的な制度となるべく要請。
- ② トップセールス等で、岩手県産農畜産物の市場価値、ブランド価値を高める取組を要請。
- ③ 低コスト、高品質を実現する生産技術の更なる普及。
- ④ 各種農畜産物の新品種の開発・促進。
- ⑤ 岩手県内外の飲食店への岩手県産農畜産物の使用促進。

3. TPP（環太平洋連携協定）について

（1）現状と課題

我々青年農業者は、岩手農業の担い手として、安心・安全な食の提供と地域コミュニティの維持・発展に自負を抱き、日々の営農活動に取り組んでいる。

TPP交渉については、若手農業者が将来に夢を持てるような、豊かな農業・農村を台無しにするものであることから、これまで反対であることを訴えてきたところである。

しかしながら、TPP大筋合意により、国会決議との整合性のない重要5品目の無関税枠の新設や関税引き下げ、さらには一部を除く野菜・果実品目の関税撤廃がなされるとされた。

TPP大筋合意の内容は、農業生産者の意欲を削ぐばかりか、農業・農村の崩壊につながるものであるため、我が県として、政府にはTPP大筋合意にかかる説明責任をしっかりと果たすよう働きかけを行う必要がある。

（2）青年部としての活動の展開

- ① 盟友一人一人が消費者に反対を訴える情報発信源となれるよう、正しい知識・情報を得るための意見交換会や学習会の実施。
- ② 他団体と共同で活動をすることにより広くメディアに取り上げてもらい、農業団体だけが反対しているような世論を変えるよう働きかけ。
- ③ TPP大筋合意の内容が及ぼす農業、農村への影響も含め、我々若手農業者が納得できる説明を行うことを強く要請していく。

（3）行政・関係団体への働きかけ

- ① 国民に対する適切な情報開示を政府・行政に対して要請。

4. 青年部組織の活性化に向けて

(1) 青年部活動の現状と課題

近年、農業従事者の減少および高齢化に伴い、青年部盟友数は減少の一途をたどっており、組織力が低下してきている。

○過去5年間の盟友数の推移

年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
盟友数(人)	1,904	1,855	1,819	1,758	1,705

(※ 調査基準は、毎年2月1日時点)

青年部盟友数が減少する原因としては高齢化以外にも、地域の若い農業者がなかなか加入してこないという実態がある。その理由として、①兼業農家の増加により農業活動に関わる人が減っている、②地域やJA等関係団体の行事があり、日程の重複や休日がなくなるため青年部活動には参加しない、といったことがあげられる。

こうした状況から、青年部行事に参加する盟友は毎回固定化されてくるため、組織活動がマンネリ化し、新しい企画もだされなくなるという負の循環になっている。また、青年部がどのような活動をしているかわからないため、加入することに躊躇している若い農業者も地域にいる状況もみられる。

地域農業の発展に向けては、未来を担う青年部活動の活性化が重要であることから、このような状況を打開し、組織の活性化に向けて取り組んでいかなければならない。

(2) 青年部としての活動の展開

- ① 青年部活動について、積極的な活動となるよう盟友一人一人に活動の提案をしてもらうよう、会議等の機会の設置。
- ② 生産部会やJA・連合会との学習会の設定など、青年部盟友だから得られる組織メリットを享受できるような活動の展開。
- ③ 青年部がどのような組織かわからないという人がいなくなるよう、活動内容についての情報発信。
- ④ 兼業農家の加入促進を図り、様々な業種によって得られたスキルを青年部活動の活性化に反映させる。
- ⑤ 各地域において、小学校から大学まで幅広く食農教育を行い、農業ファン・青年部ファンを増やし、農業の認知度を向上させる。

(3) 行政・関係団体への働きかけ

- ① JAの広報誌や日本農業新聞などに活動を取り上げてもらうような働きかけ。
- ② 盟友数の増加には農業者の増加が重要であることから、新規就農支援対策や後継者対策等、専業農家の増加につながる政策の実施に対する要請。
- ③ 青年部活動の資金助成について、JAや関係団体への働きかけ。

5. 東日本大震災からの復興に向けて

(1) 震災被害の現状と課題

被災地県の青年部として今後も復興に向けた活動には率先して取り組んでいかなければならない。時間の経過とともに被災地のニーズも変わってきているが、被災地の方々がどのような支援を望んでいるかタイムリーな情報を把握できないことも多いという声も聞こえる。

また、沿岸・内陸の各地において東京電力福島原発事故による放射能汚染やそれにとまなう風評被害対策が重要な課題となってきた。

被災前の状態にはまだほど遠いのが現実であるが、一歩でも近づけるために青年部盟友でも可能な限り復興に向けて取り組んでいく。

(2) 青年部としての活動の展開

- ① 復興に向けた活動を風化させないために、他県青年部との交流の実施。
- ② 会議やイベントを被災地で行うなど、現地での経済活動の実施。
- ③ 被災した各地域のイベントが震災前と同様に取り組めるよう、開催に向けて協力するよう盟友への働きかけ。
- ④ 一部奉仕的な支援は被災者の自立の妨げになることから、活動の選別。

(3) 行政・関係団体への働きかけ

- ① 被災地復興支援の活動に対する活動助成金の措置を講じるよう行政に要請。
- ② 内陸での復興支援活動状況やイベントについて、被災地の方々がいつでも情報を得られるよう窓口等の整備を要請。また、それらの情報発信窓口等を知らない人がいないよう周知徹底をはかるよう要請。
- ③ 被災地の情報を定期的に発信するよう J A や商工会に対しても要請。

6. 作目別の課題

<水稲－平場>

(1) 課題

都市部または周辺部では住宅や交通機関等による影響により農地集積が難しい状況にある。たとえ集積が進展しても、大型機械導入等に経費がかかりすぎるため、経営の安定につなげることができない。

(2) 青年部としての活動の展開

- ① 農業用機械の共有化と担い手のグループ化を進め、基盤強化に努める。
- ② 大規模栽培に対応した直播等の低コスト栽培の技術を積極的に取り入れるため研修等を実施する。

(3) 行政・関係団体への働きかけ

- ① 転作作物の団地化の推進、およびそのメリットを広く周知し、団地化が進むように要請
- ② 安定経営に向けた転作作物の栽培にかかる政策の充実等を要請

<水稲－中山間>

(1) 課題

中山間地の水田は平場に比較し条件不利地であり、離農や耕作放棄地の増加が進んでいる。しかしながら、そうした条件の中での水稲栽培の継続は、里山・景観等の保全や、水源地の確保など多面的機能を果たしており、営農の継続は地域社会に対する大きな役割を担っている。

(2) 青年部としての活動の展開

- ① 地域における集落営農や法人化の進め、その中核を担っていく。
- ② 条件不利地ながらも経営改善の努力を行うとともに、多面的機能の維持に向け水源等の管理を行っていく。

(3) 行政・関係団体への働きかけ

- ① 中山間地ならではの基盤整備を要請
- ② 集落営農や法人化への支援、それに伴う政策の充実を要請

<果樹>

(1) 課題

食文化、生活習慣の変化により、価格が低迷している状況にある。また、高齢化の進展、後継者不足による離農等により、高度な生産技術の伝承がなされないことにより技術力の低下が進んでいる。

(2) 青年部としての活動の展開

- ① 相互の技術交換や、合同研修の開催を行う。
- ② 産地を守っていくために、経営規模の拡大・効率化に努める。

(3) 行政・関係団体への働きかけ

- ① 県、市町村における産地ブランド力向上に向けたイメージアップの取組強化を要請
- ② 消費量が減少する中で、産地を守っていくために加工等の推進、関係団体等との連携支援を要請

<園芸作物>

(1) 課題

生産作目の販売単価が安く、価格変動が大きいため、経営・所得が不安定な状況にある。また、燃料や生産資材が高騰しており、経営の圧迫に繋がっている。

(2) 青年部としての活動の展開

- ① 消費者に選ばれる作物・商品を生産するために、生産技術の一層の向上に努める。
- ② 販路・消費拡大に向けたJ Aや関係団体との連携の強化を行う。

(3) 行政・関係団体への働きかけ

- ① イベント等の開催による、作目・商品のPRの場を多く設定してもらうよう要請

<畜産>

(1) 課題

高齢化、後継者不足が進展している中、若手生産者が増頭を考えているが、設備投資等の運転資金の確保が厳しい状況にある。

(2) 青年部としての活動の展開

- ① 繁殖現場と肥育現場との情報交換の場を設け、更なる産地づくりを確立させる。
- ② ブランドの知名度の向上のため、イベント等において積極的な消費者へのPRを展開する。

(3) 行政・関係団体への働きかけ

- ① 本県は、生産地ではあるが消費地とはいえない状況にある。消費者の嗜好に即した市場開拓を行い、地産地消の拡大を要請
- ② 生産コストの低減と成績向上のために、地域コミュニティの枠を超え、県内の特性を活かした耕畜連携の支援・強化を要請

<酪農>

(1) 課題

配合飼料や燃料の高騰により、酪農家の経営は不安定な状況にあり、WCSの利用や自給粗飼料の安定確保が必要とされている。

(2) 青年部としての活動の展開

- ① 水稻、野菜等の生産農家と連携を密に図り、WCSや堆肥を循環させ、粗飼料の安定利用、良質な粗飼料の確保に努める。
- ② コスト削減、経営安定化のために区画整備を行い、作業の効率化を図る。

(3) 行政・関係団体への働きかけ

- ① WCSの購入等、飼料の地域内循環に対するの支援・助成の拡充を要請
- ② 区画整備等促進のための態勢整備を要請